

# 「ピースメーカー」

～柔和、哀れみ、平和 トラブルメーカーになるべからず～

マタイ5：3～10

「勇」という文字を30秒間ずっとみていると「マ」「田」「力」という様に一つの漢字がバラバラの文字に見えてくる方がいるかもしれません。これは脳の誤作動のひとつで、ゲシュタルト崩壊というものです。私達が本当は大きな物を見なければならぬのに、その中の一つの出来事だけを注視してしまい、全体のバランスが崩れてしまうという象徴的な人間の脳に起こる現象です。もしこの全体のバランスを崩してしまうと、ここという時に大切なものを見失って大事な物を逃してしまうという事が起きてしまいます。今一度、皆さんの目線が本当に全体を見れているのか確かめましょう。そして全体を見ようとする時に私達に必要なのは、何をどのようにして全体を見るのかという事です。私達の人生において、その全体を見失う物が現実に起こる出来事です。身近な人の予期せぬ発言で今まで全体を見てその人を受け入れていたものが、ある一言でその事だけに焦点が合ってしまう「もうこの人とはやってられない」となってしまう事がないのでしょうか？

マタイ5章3～10節には日々のことで悩んではならない、まず神を愛し、隣人を命がけで愛せという黄金律の中心の内容に対する説明が書かれています。神様は自らの心の貧しさを探し求め、自らの心の弱さを探し求め、それが改善される事を願っています。その弱さを知った人が強くなるために何かを探し求めるは幸いなのだと伝えています。

## ①神に対しての柔和 ～神が置かれたところで神に柔和に生きる

英語の辞書による柔和の概念は、弱いという意味で【従順すぎる】【簡単に押し付けられる】【意気地のない】【元気のない様】などと定義されている部分があります。しかし聖書に書かれている柔和とは、イエス・キリストが自らの十字架の道に与えられた苦しみを、苦しみとせず、それを忍んで耐えた。それを柔和とっています。甘んじて受けるは、神に対して柔和ということになります。私達人間は問題が起きた時、「なんで、こんな目に合わなければならないんですか？」とすぐに文句を言って神様に怒ってしまいます。しかし神様は私達のことを親の目線で見ていますので、あなたが幸せを受け取った時にその幸せを落とさないように、流れてしまわないように、あなたの手の中からこぼれないように、その幸せがしっかりと保たれて、あなたの代だけではなくあなたの次の代にまで伝わる様にして下さいます。問題も時が過ぎれば、「こんな意味があったんだな」と気付く事が出来ます。私達は神が置いた場所にあつて寛容でなくてはなりません。その様に考えると『柔和』の意味は正しく感じられます。神が置かれた場所に対して【従順すぎる】【簡単に押し付けられる】【意気地なく受け入れる】となります。そして【元気のない様】は、重荷を下ろし辛かった事を告白し元気のない状態で神様の前に出る事となります。「何故？」と思う様な事が起きた時こそが正しい道に帰る時です。「何故？」のチャンスを逃さない様に、神に対して柔和でなければなりません。

## ②哀れみに生きる

あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。(マタイ5章7節)

イエス様の哀れみは何を見て哀れだと思ったのでしょうか？

私達は大概違う哀れみで人を見てしまいます。苦しんでいる人を見て「ああ、かわいそうにねえ」となります。私達は、自分も通ってきたところだから分かるという同情の心から物事を行なってしまいます。それが悪いと言う訳ではありませんが、これはunderstandではありません。イエス様の哀れみは、その人の内側にひそむ罪を哀れんでいます。そして、イエス様はその罪や過去に通った痛み、苦しみを取り除くために命をかけて下さいました。哀れみとは、その人がそうってしまった原因を探り、表面上の解決をするのではなく心の内側の根源を取り除き解決をする事です。聖徳太子が制定した十七条憲法の中に「和を以て貴しとなす」という言葉がありますが、本当の和とは何でしょうか？それは、相手に平和を作ってあげる行為であり、イエス・キリストの和を以て貴しとなす行動はその人の戦いを取ることでした。キリストの和とは十字架なのです。

## ③無私、赦しに生きる

八木重吉(大正時代のクリスチャンの詩人)

どうせ短い命 できる限り美しい心でいよう

すべてのくるしみの根源は 無条件に無制限に人を赦すという

その一念が消えうせたことだ

神のように赦したい。

人が殴る憎しみを胸にあたため

花のようになったら、神に捧げたい

長い命でないとおもえばこれから

一生懸命神を信じて人を愛していこう

自分が出てくると腹がたつし、キリストの十字架を無にします。自らの内側に生きようとする自分を少しでも追いやる事が出来れば、出来る事なら排除する事ができれば、あなたはこの地にあつて幸いを得ると聖書はっています。神様はあなたを責めたくて伝えているのではありません。あなたに幸せになって欲しくて、あなたが真実な歩みができる様に、あなたの素晴らしさが人々に流れる生き方ができるように願っています。

(要約者:辻 総一郎)

(6月11日)